

— IDEA AWARD — GAIS AI DEVCON —

よそ見 ヒント。

— 行き詰まった時に、ちょっと脇道へ。

AIが「関係なさそうで関係ある」ヒントを差し出す発想支援ツール

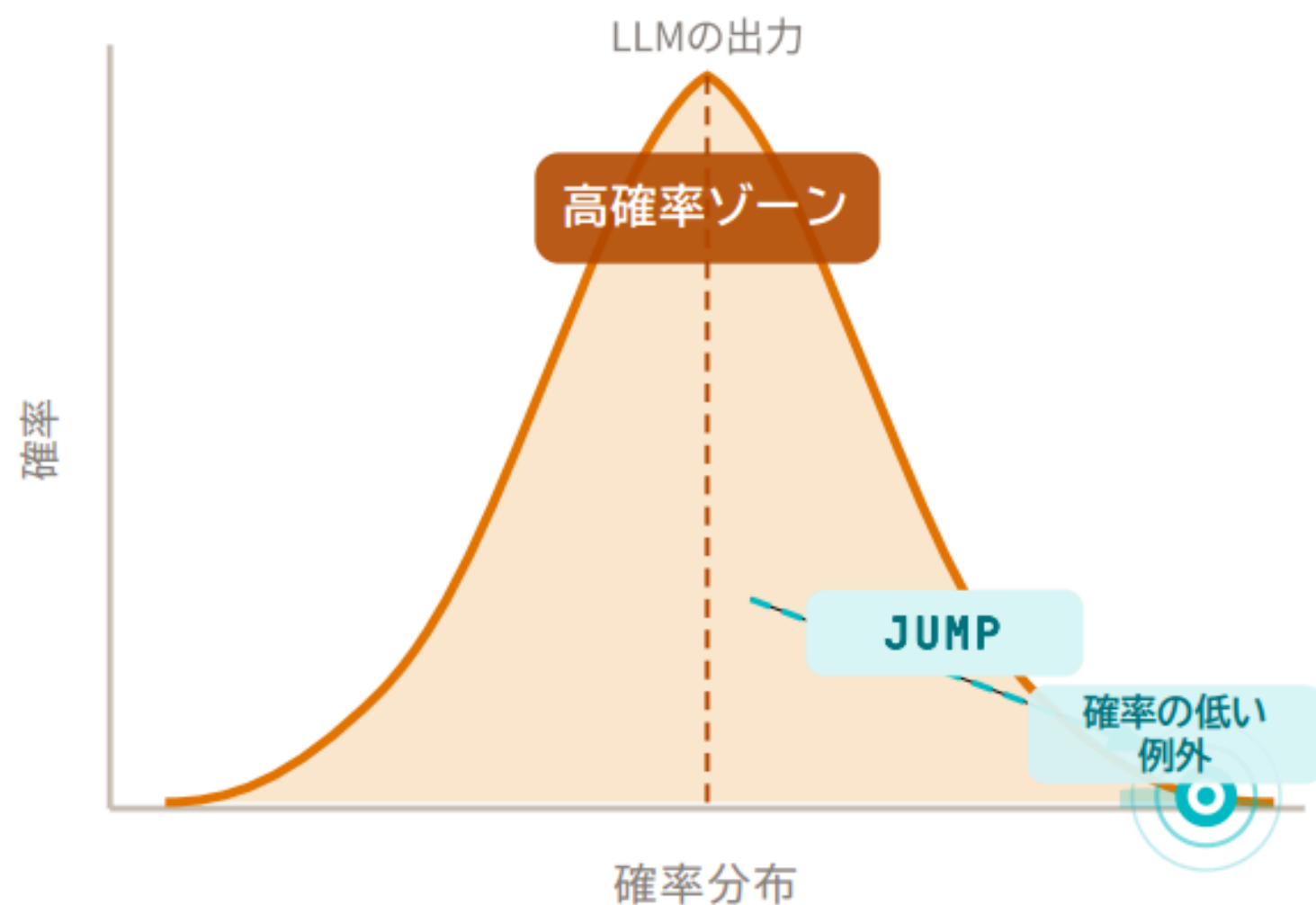
作品の概要

考えごとに詰まった時、
「真正面から考える」のをやめて、
一度**よそ見**してみるためのAIツール。

入力したテーマに対して、
AIが**あえて少しズレた角度**から
連想のきっかけを返してくれる。



オフィスでも自宅でも



AIは平均化マシン。常に中央の山を目指す。

イノベーションは裾野に宿る。

01 「平均」という名の落とし穴

現在の AI (LLM) は、膨大なデータから「最も確率が高い言葉」を選び出す、究極の「平均化マシン」。

しかし、イノベーションの本質は常に「確率の低い例外」にある。

“

AIは、過去の正解をなぞるプロだ。

しかし、過去の延長線上にない未来を創るとき、
AIの出す『もっともらしい正解』は、思考を縛る檻になる。

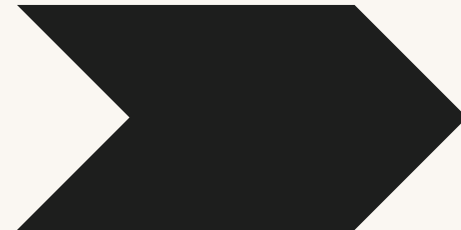
求めたのは、AIに『正解』を答えさせることなく、
あえて文脈を破壊し、確率の低い領域へ思考を跳躍させる力だ。

— 開発の背景より

出力内容

入力内容

建設現場から発生する
大きな騒音を、
周囲の住民に迷惑をかけずに
劇的に抑制する方法を見つけない。



出力内容拡大 1

01

フクロウの消音飛行 メカニズム（バイオミ メティクス）

類
推
事
例

類推元の背景

フクロウの羽の縁にある「セレーシ
ョン」と呼ばれるギザギザ状の構
造が、空気の大きな渦を小さな
渦に細分化し、羽ばたきの際の
空気摩擦音を劇的に抑制してい
る。

💡 解決のヒント

建設現場の足場や防音シー
トの端に、微細なフリンジ
（房飾り）やギザギザ状の
「音響セレーション」を施す。

これにより、音波が境界を越
える際に一つの大きな波動と
して伝わるのを防ぎ、微細な
渦としてエネルギーを分散・熱
変換させることで、物理的な
壁の厚さに頼らずに低周波の
騒音を抑制する。

出力内容拡大 2

02

アクティブ・ノイズ・キャンセリング（音響工学）

類推事例

類推元の背景

ヘッドホンにおいて、外部の騒音と正反対の波形（逆位相）を生成してぶつけることで、物理的に音波を打ち消し合い、静寂を作り出す仕組み。

💡 解決のヒント

現場の境界線沿いに「アクティブ消音フェンス」を設置する。

AIが重機の稼働音をリアルタイムで解析し、周辺住民の居住エリアに向けて、騒音を打ち消す逆位相の音を大型スピーカーから放射する。

物理的な壁を高くするのではなく、見えない「デジタル防音壁」を構築し、特定のターゲットエリアの騒音をピンポイントで消去する。

出力内容拡大 3

03

都市のサウンドスケープ設計（音響生態学）

類推事例

類推元の背景

都市の騒音を完全に消すのではなく、噴水の水音（白雑音に近い性質）を意図的に配置することで、不快な騒音を背景音として心理的にマスキングし、心地よい環境を創出する手法。

💡 解決のヒント

騒音を「遮る」のではなく「変換」する。

現場から発生する金属音や振動音をセンサーで拾い、それをリアルタイムで環境音楽や自然の音（風の音、小川のせせらぎ）の「トリガー」や「基音」として利用し、変調して放送する。

住民にとって騒音を「工事の音」ではなく「生成的な環境アート」の一部として知覚させることで、ストレス閾値を劇的に引き上げる。

出力内容拡大 4

04

ステルス戦闘機の幾何学的形状（軍事航空工学）

類推事例

類推元の背景

機体表面の角度を計算し尽くすことで、レーダー波を送信元に返さず、全く別の方向へ反射（偏向）させて探知を回避する技術。

💡 解決のヒント

音響幾何学に基づいた「音響リフレクター」を現場に配置する。

従来の垂直な防音壁ではなく、音波を上空（無人領域）や特定の吸収体に向けて反射させる多面体構造のパネルを導入する。

音を「止める」のではなく、鏡のように「光（音）の進路を曲げる」ことで、住民のいる水平方向へのエネルギー漏洩を最小化する。

THEME

ヒントをもらって ~~終わり~~ にさせない。

実行可能性 を高める「**深掘り (Deep Dive)**」設計。

01

FEATURE

対話型の深掘り

- digDeeper

各ヒントカードに **digDeeper** 機能を搭載。

提示された事例について、そのまま **AI と対話を続けて** さらに具体的な質問ができる。

「気になったヒント」をその場で深掘り → アイデアの解像度を上げる。

ヒント提示



深掘り質問



具体化

02

UX DESIGN

構造的マッピングの解説

- How It Works

「How It Works」セクションで、本ツールが 単なる「**似ている事例**」を返すのではなく、

本質的な「**構造(メカニズム)**」を転移させる手法 であることを明示。

ユーザーを「正しい使い方」へと導く。

A. 元の課題



課題

構造の転移

B. よそ見の事例



事例

DEV METHOD / AI支援

Google AI Studio × Vibe Coding

自然言語での対話を通じた要件定義から実装まで、**高速なプロトタイピング**と開発を実現。

CORE ENGINE / 生成AI

Google Gemini API `gemini-3.0-flash-preview`

入力された課題から構造を抽象化し、**異業種の事例(アナロジー)**を生成する推論ロジックとして活用。

FRONTEND

React

TypeScript

Vite

UI / STYLING

Tailwind CSS

VISUALIZATION

D3.js

類推ネットワークの
2D 知識グラフ描画

UX / MOTION

Motion

Lucide React

INFRA / DEPLOY

Google Cloud Run

コンテナ技術によるスケーラブルな環境を構築しつつ、**無料枠の範囲内で運用**。

⚠ 運用上の制限

個人運営のため、アクセスが集中し無料枠の上限に達した場合は、**当該月の稼働を自動停止**するフェイルセーフな設計。

VISION

独創性を極める 「フィジカルAI」への進化。

Web画面上での完結から一歩踏み出し、
現実世界と干渉するデバイスとして「よそ見ヒント」を拡張する。

NOW



Web上で完結

一歩踏み出す

NEXT

現実世界と
干渉するデバイス

ありがとう。

PRESENTED BY DD / DD AI STUDIO

portfolio: dd-ai-studio.com app: よそ見ヒント